市指定文化財<史跡>

# 菊池氏墓所
# 菊池武重の墓

指定日　昭和41年4月15日

所在地　菊池市亘

菊池武重は12代武時の嫡子で、元弘3年（1333）、父と共に博多の九州探題北条英時の館に討ち入るところであったが、武時は武重に故郷に帰り、菊池家を再興するように命じた。これが、袖ヶ浦の別れである。

父の死により13代惣領となった武重は、寺尾野城で旗揚げし菊池氏の巻き返しに尽力した。京都から刀工一族（延寿派）を招き、以降の戦術に大きな影響を与えることとなる「菊池千本槍」を考案し、箱根竹下の戦いで勝利した。また菊池家憲「よりあいしゅないたんのこと」を制定して一族の団結を図った。

墓は輪足山東福寺の歓喜院跡にあり、15代武光の墓を模して文化13年（1816）に造られた。

**市指定文化財<史跡>**

# 菊池氏墓所
# 菊池武光の墓

指定日　昭和41年4月15日

所在地　菊池市隈府　正観寺

武光は13代武重の弟で、14代武士が合志幸隆に奪われた菊之城を奪還して15代惣領となった。大方元恢和尚を招いて熊耳山正観寺を建立し菊池五山を定めるなど内政を固める一方で、征西将軍として赴任した後醍醐天皇の皇子懐良親王を菊池に迎え、親王が開いた隈府征西府を支えて南朝方の版図拡大に尽力した。その生涯は戦いに明け暮れ、百戦百勝の名将と称えられる。

武光が関わったなかで最も有名な戦いは大原の戦い（大保原の戦い・筑後川の戦い）で、関ヶ原、川中島と並び日本3大合戦に数えられる。

もとは樟の巨木が墓神木とされ、別の墓標があったようであるが、渋江紫陽、松石父子や隈府の豪商である宗伝次らの尽力により、湊川神社にある楠正成の墓を模して安永8年（1779）に現在の墓が建てられた。